

トンガ王国小学校に於ける歯科保健プログラム（マリマリプログラム）の普及活動とその成果

○河村サユリ 1, 河村康二 1, Fifita Sisilia 2, 竹内麗理 3, 遠藤真美 4, 清水 潤 5, 田口千恵子 6, Tomiki Sililo 7, 小林清吾 6,

1 カワムラ歯科医院, 2 日本大学松戸歯学部病理学講座, 3 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座, 4 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座, 5 まごころ病院, 6 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座, 7 トンガ国立 Vaiola 病院

【要約】:

1998年よりトンガ王国で歯科保健プログラムを開始、2006年8月に普及状況を把握するとともに、対象小学校の教師、生徒、父兄及び歯科保健スタッフへの質問調査・聞き取りにより、プログラムの理解や生活習慣の変化を調査した。結果、歯科保健への関心の高まり、生活習慣の変化等、トンガ人社会で意識変化・行動変容が見られる状況である事がわかった。

【目的】:

1998年よりトンガ王国において、南太平洋医療隊は学校をベースに、歯科保健教育・歯磨き指導およびフッ化物洗口（以下、F洗口）などの第一次予防を中心としたマリマリ（笑顔の意）プログラムを行ってきた。トンガでの歯科保健の広がりにはトンガ人自ら歯科保健プログラムを確立施行していく必要があり、この為トンガの住民の意識変化や態度・行動変容を知る事は必須である。今回、F洗口普及状況の把握とともに、本プログラムに関する受入意識や実施状況を把握することとした。

【対象及び方法】:

2006年8月、トンガ歯科保健スタッフに対する聞き取りと現地訪問によりF洗口普及状況を把握した。F洗口液は、中央の病院で作成し、自動車で定期的にデリバリーする方式をとっている。またトンガタブ本島30小学校、ハーパイ諸島7校で教師187名、小学4年生702名とその保護者に本プログラムに関する質問調査を行った。英語とトンガ語を併記し、本プログラムの理解度、歯磨き習慣や歯磨剤の使用、歯科に関する関心などを質問項目とした。

【結果及び考察】:

F洗口の普及状況を図に示す。1998年に1小学校から始まった本事業は、2006年8月現在、幼稚園6校、小学校41校で実施され、園児児童計で5,986名が参加するに至った。なお、その後の情報から、2007年5月現在、実施小学校は52小学校に、参加児童数は約8,500名に広がっている。質問調査の有効回答率は、質問項目により、最大100%、最少86%で多くは95%を超えていた。教師の回答では生徒に対し積極的にプログラムへの参加を勧めていることが分かった。F洗口の管理を施設自体で行いたいと考えている例もあった。学校での昼食後歯磨きの実施率は37小学校生徒全体で64%、うち本島の2校では100%であった。生徒の回答で、家庭での歯磨き習慣を持つ者は94%、歯磨剤の使用は99%、生徒が自身の歯の健康に関心を持っているとした者97%、う蝕予防に対するフッ素の効果を理解してい

た者 96%であった。一方、保護者の回答で、自分の子供が学校で F 洗口をしていることを知らなかった者は 12%であった。93%の教師がプログラム実施後、生徒の歯が綺麗になったと感じていた。プログラム実施校の増加はトンガ人歯科スタッフが独自のルートから実施しており、ラジオ放送でも歯科保健に関する講話を定期的に行っている。また当初 3 名の学校歯科チームで行っていたが、現在は全ての歯科スタッフが交代で担当し関心の高まりを窺わせる。本プログラムに対し健康省・教育省の大臣が理解を示していることも関係者の参加を積極的にしていると考えられるが、本プログラムによるう蝕予防活動によって口腔保健が大切であることの共感をもたらし、現地関係者の協力の輪が広がっていると思われる。

【謝辞】：

この事業の実施に関しご尽力いただいた、南太平洋医療隊、日本大学松戸歯学部国際保健部、JICA に感謝いたします。

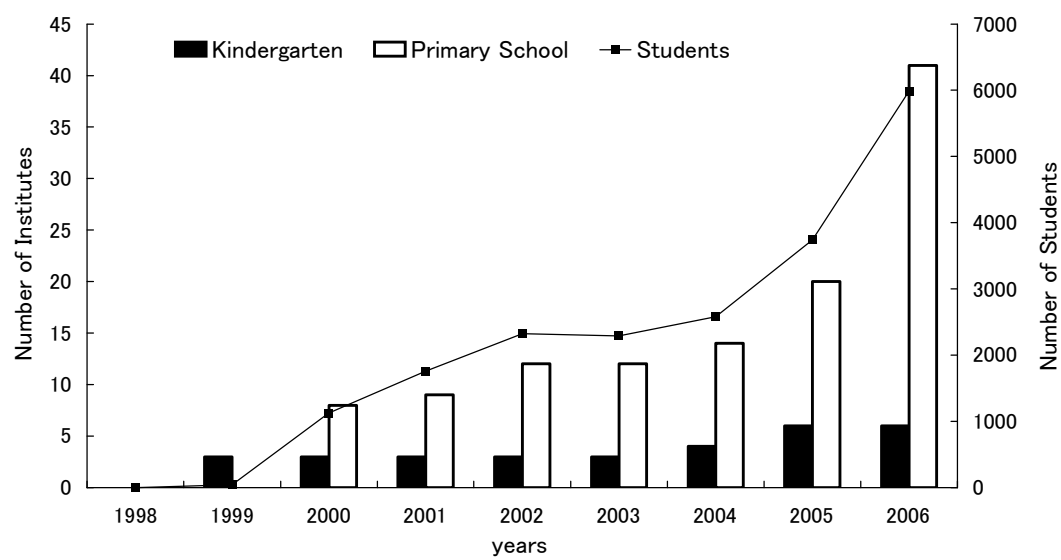


Fig. The Oral Health of The Primary School and Kindergarten in TONGA